



全消協ニュース

全国消防職員協議会発行／編集責任者 田立 理／東京都千代田区六番町1 自治労会館／☎(03) 3263-0271
ホームページアドレス／<http://zensyokyo.jp/>

全消協第46回定期総会

代議員2000名が ウェブで参集

2022年9月4日、新型コロナウイルス感染症拡大情勢を踏まえ、参集を回避した形態で全国消防職員協議会第46回定期総会を開催し、代議員数249名のうち2000名の仲間がウェブ上で参集した。



経緯について伺いたい。

各単協から役員として選出しているが、全消協からの交付金を役員個人へ支出する場合、支出項目がなく、予備費から支出している。今後このような交付金が個人にある場合は、単協をとおさず、役員へ直接交付してもらおうように対応できないか。

【回答】

ウェブ資機材購入費の支出については、社会情勢上これまでのように参集しての幹事会等が困難となりウェブを活用した会議棟が増えてきました。

受け取る形としました。

この度の交付方法については、単協でも予算計上している事業ではなく、支出するために苦慮されたことと思います。

今後は役員改訂年度ごと、各役員がパソコン等を購入した領収書等を提出することにより上限10万円を支出しますが、支給方法については幹事会で検討していきたいと思えます。

●役員選挙委員会報告

遠藤貴幸 役員選挙委員会委員長

2023年度役員選挙報告が行われ、e投票システムにて代議員による信任を得て承認された。

【2023年度役員体制】

会長 須藤洋典 高松市消防職員協議会(香川県)

副会長 佐藤昭徳 延岡市消防職員協議会(宮崎県)

副会長 小野英一 釧路市消防職員協議会(北海道)

事務局長 田立理 越谷市消防職員協議会(埼玉県)

事務局長次長 吉村大作 指宿南九州消防職員協議会(鹿児島県)

事務局次長 川北研人 四日市市消防職員協議会(三重県)

北海道ブロック幹事 長谷川亜純 函館市消防職員協議会(北海道)

東北ブロック幹事 石黒和久

新潟市消防職員協議会(新潟県)

関東甲ブロック幹事 櫻木圭 草加八潮消防職員協議会(埼玉県)

北信ブロック幹事 斉藤好太郎 上田消防職員協議会(長野県)

東海ブロック幹事 右門秀敏 松阪地区広域消防組合消防職員協議会(三重県)

近畿ブロック幹事 長谷部寛 交野市消防職員協議会(大阪府)

中国ブロック幹事 西尾基貴 尾道消防職員協議会(広島県)

四国ブロック幹事 山端孝高 松市消防職員協議会(香川県)

九州ブロック幹事 岡大祐 佐伯市消防職員協議会(大分県)

女性連絡会代表 吉永紗弓 佐賀広域消防職員協議会(佐賀県)

UIス部代表 永柴勝久 鳴門市消防職員協議会(徳島県)

特別幹事 斉藤英之 須坂市消防職員協議会(長野県)

特別幹事 竹内洋司 四日市市消防職員協議会(三重県)

特別幹事 村上直樹(春日・大野城・那珂川消防行政研究会(福岡県))

会計監査 高橋博美 伊達地方消防組合職員協議会(福島県)

会計監査 國久淳平 高知市消防職員協議会(高知県)

- 議長団選出
北海道ブロック苫小牧消防職員協議会から須藤悟氏、関東甲ブロック小田原市消防職員協議会から遠山孝志氏を議長に選出し、議事進行を務めていただいた。
- 須藤洋典会長挨拶
来賓挨拶
自治労本部総合組織局長 藤森久次様
参議院議員 鬼木まこと様
- 2022年度活動経過報告
田立理事務局長
- 女性連絡会活動経過報告
吉永紗弓女性連絡会代表
- UIス部活動経過報告
永柴勝久UIス部代表
- 2022年度会計決算報告
小野英一副会長

- 2022年度会計監査報告
竹本典孝会計監査が行われ、質疑・討論の後、e投票システムにて賛成過半数をもって可決・承認された。
午後からは
2023-2024年度活動方針案
佐藤昭徳副会長
2023年度予算案
小野英一副会長
- 出席代議員1名から事前質問があり、質疑を行った。
【質問内容】
佐賀広域消防職員協議会
今年度、ウェブ会議資機材購入費を全消協役員に交付されているが、支出方法として各単協へ交付され、各単協から役員へ支出することとなった。この方法をとった

全消協役員が所有しているパソコンには、個人購入したもの、単協・県消協、ブロックから貸与されているもの、スペックが低いものなど、様々なケースがありウェブ会議をしていく中でパソコンのスペックや通信環境の影響で会議に支障をきたす場面が生まれました。そこで、ある程度のスペックを備えたパソコン、インターネット環境の構築が必須となり、個人や単協等の負担にならないよう全消協が責任をもって、ウェブ資機材等を整備することとなりました。

幹事会で協議を重ねた結果、パソコン等の所有形態に様々なケースがあったこと、透明性を高めるため、役員に対するウェブ資機材購入費については役員の出身単協へ10万円を入金し、各役員が領収書等の提出により、上限10万円を

全消協第46回定期総会

会長挨拶

第46回定期総会にて、引き続き会長の任にあたることとなりました須藤洋典(高松市消協)です。会長職を1年経験し、さらにその重責を感じております。会長就任以降、これまでの活動の進捗を振り返り、そして単協活動へ還元するために、何が必要であり、何を改善すべきかを考え、全消協幹事会にて議論を重ね実行してまいりました。

昨年の会長就任挨拶にて、会員の皆様方には単協役員を、単協役員は県役員を、県役員はブロック役員への支援をお願いいたしました。全消協としては、ブロック役員を含む全消協幹事会役員が継続して活動が行えるよう、金銭的な負担軽減のためパソコン等通信機器購入補助費を創設し役員支援体制を整えました。

学習会・研修会においては、なるべく多くの会員の皆さんに参加していただき知識の還元ができるよう、ウェブ会議システムの導入・構築を行いました。

ブロック会員数に応じた参加人員割り振りを実施、参加枠不平等問題の改善に取り組みました。以前は徴収していた資料代については、徴収制度を廃止、さらにホームページに資料の掲載を行い会員の皆さん方が閲覧できるようにしました。

全消協の役割の一つとして人との繋がり、情報の共有があるとと思っています。皆さん方に有用な情報を安全に共有してもらうために、本年度はホームページの刷新を予定しております。定年年齡延長制度に関する情報等、迅速に掲載してまいりますので単協活動での一助にしたいだければ幸いです。

今後、コロナの感染状況や社会情勢に活動の制限を受けることがあるかもしれません。皆さま方の協力をいただき主体的で働きやすく働き甲斐のある職場環境構築のために役員一同邁進してまいりますので叱咤激励をお願い申し上げます。会長挨拶といたします。

全国消防職員協議会

会長 須藤洋典

第7回女性交流会を開催

2022年8月9日(日)、女性連絡会第7回女性交流会を開催し、会員30名が参加した。広く意見を求めるため、性別問わず参加可能とし、開催にあたっては、女性連絡会幹事とユース部幹事が合同で進行するとともに、フィードバックを実施した。

交流会冒頭、田立事務局長があいさつを行い、女性消防吏員の歴史・年齢層問わず幅広い参加について感謝し、この機会にぜひ活発な意見交換をお願いしたいと呼びかけた。

続いて行われた講話では、女性連絡会東海・近畿・中国合同ブロックの佐藤幹事が業務内容・勤務体制・施設紹介を行った。主に自本部の取り組みについて発表が行われ、参加者は他の職場環境との違いについて知見を広げ、各本部に合った活用について考察した。交流会後のアンケートでは、「他の消防の情報が知れて良かった」、「他の消防署の施設や勤務時の環境について知ること

ができた」などの意見が多数寄せられた。

総務省消防庁の令和3年度消防白書において「女性消防吏員がない消防本部数は、年々減少しているものの、令和3年4月1日現在全国724本部中131本部(18.1%)あり、その約8割が消防吏員数100人未満の消防本部である。」と発表されている。

全消協でも初めての女性消防吏員採用に合わせ、ハード面・ソフト面ともに準備をしたいとの相談が寄せられることが近年でも多くある。特に業務内容・勤務体制・施設については、既存の建物や制度等、複合的な要素が絡み、一筋縄でいかな



グループワークで出されたさまざまな現場の課題

後半のグループワークでは、前半の講話をもとに6グループに分かれ、意見交換を行った。

業務内容では、「性別区別なく訓練では内部進入等をするが、実際の現場に行くと内部進入させてもらえず、機関員を任せられる」「女性が救助隊に入ることができない」「災害派遣は、派遣させてもらえない」「イベント等の司会は女性の仕事のようになっている。若年の方は断りづらいだろうと思う」「育児休業後の現場復帰がしにくい状況・日勤救急隊発足の要望を行っている」

理由は分からないが、一度現場を離れると希望していても現場復帰が難しい」との意見が聞かれ、女性であるという理由で制限されている部分が多すぎることがわかった。一方、勤務体制や休暇については、「休暇を取りやすい環境である」「出産や育児に関する休暇や休業取り扱いがいまいちなため独自でガイドブックを作成している。しかし、ガイドブックに縛られている面もある」との意見が聞かれ、女性連絡会で2019年度に実施したアンケートでも判明しているが、年々改善している一方、さらなる改善が必要であることが、具体的な意見からわかった。

施設整備については、「洗濯機や乾燥機が女性専用であるが男性が使用している」「庁舎建て替えの際に意見しても反映されない」との意見が聞かれ、女性連絡会として多方面への働きかけを強める必要性を感じた。

この意見交換で、各会員は、自本部と他本部の体制を改めて知るきっかけになったのではないだろうか。特にまだ女性消防吏員の採用が少ない本部では施設に関しても整備途中である場合が多く、今回のグループワークで得た内容を参考に意見したいとの声も聞かれた。

ハイブリッド開催も視野に今後の開催方法を議論

交流会後のアンケートでは、開催方法について、ウェブ開催であれば感染対策以外にも参加に対するハードルが下がるという意見や、対面開催の場合地域によっては遠方になることや届出が必要となり参加が叶わない、感染状況や家族との調整もしやすく自宅からの参加が好ましいという意見が多くあった。対面開催を希望される意見として、対面で意見交換することで今後の長い交流につながるためという希望がみられた。女性連絡会としても感染状況も鑑みて、今後はハイブリッド開催を視野に入れることも検討していくとともに、参加者の年齢層が広がってきてきたことから、今後その点についても考慮していくことが求められる。今回も参加者の皆様のご協力をいただき、運営幹事一同、様々な学びを得ることができた。活動での学びをさらに活動でフィードバックするとともに、意見反映することで還元したい。活動を広く知らせるとともに、女性連絡会としてステップアップしながらの活動を今後とも続けていきたい。

PSIIと 国内の活動について

PSIIとは、国際公務労連のことを言い、世界150か国以上で重要な公共サービスに携わる女性と男性2000万人以上を代表する世界的労働組合連盟である。

PSIIのメンバーは、社会サービス、ヘルスケア、自治体業務、中央政府、水や電気などの公益事業に携わっている。

全消協がPSIIに加入し、活動を行っている理由として、国内への働きかけのみでは団結権の回復や日本政府が団結権の代償措置との見解を示している消防職員委員会制度を変えることには限界があると考えるからである。国外の意見を活用することで、より国内の活動を活発にしたいと考えている。

直近では、2018年5月から開催された第107回ILO総会において、日本における消防職員の団結権問題が審議された。その際に他国政府代表からも日本政府に対する厳しい意見が出され、消防職員委員会制度の不備についても言及された。これにより、消防職員委員会の運用方針の改正や労働者側との定期的な意見交換の場を持つと日本政府が提起することとなった。この時に実施されたのが、消防職員委員会制度の一部改正、自治労と全消協役員を含めた定期交渉へと繋がっている。

国際連帯活動は、取り組んだ結果が直接表に出にくい部分が多い。しかし、国内だけで意見を伝えても変わらなかったことが、PSIIを通じて前進している。今後も、PSIIを通じて日本政府へ消防職場の現状や課題、団結権の回復を目指した活動を継続していきたいと考える。

総務省消防庁に対し

「消防行政の充実強化 に関する要望書」を提出

2022年7月29日、総務省消防庁に対し、2022年度2回目となる「消防行政の充実強化に関する要望書」を提出した。

消防庁からは前田消防庁長官が出席、全消協からは新型コロナウイルスの感染予防の観点から出席者数を制限し、須藤洋典会長、田立理事務局長の2名が出席した。また自治労からは青木総合組織局長、自治労消防政策議員懇談会から岸まさこ議員も同席した。

消防庁長官が異動に伴い前田消防庁長官になったことから、あいさつを実施。その後門前消防・救急課長と要望書を交わし、岸まさこ議員、青木総合組織局長、須藤会長があいさつ後、消防職員の現状について訴えた。

要望書の内容は次の7項目

- ① 消防行政の充実と労働安全衛生体制の構築について
- ② 新型コロナウイルス感染症対策について
- ③ 緊急消防援助活動等について
- ④ 働きやすい職場環境の整備について
- ⑤ 広域化について
- ⑥ その他労働条件に関する事項について
- ⑦ 消防職員との協議の継続・推進について

その中でも現状を踏まえ、②新型コロナウイルス感染症対策について、④働きやすい職



場環境の整備について、⑥その他労働条件に関する事項について、⑦消防職員との協議の継続・推進についての4項目について重点的に意見交換を実施した。

要望書に対する総務省消防庁からの回答を得るだけでなく、意見交換の時間を多くとったことで、有意義な活動となった。

総務省消防庁への要請行動は、基本的には年に二度しか機会のない大切な取り組みであり、「全消協」という組織に結集した全国の会員の意見を政府に直接届けることができる、大変意義のある活動である。

第1回厚生労働省との意見交換会を実施



2022年9月5日(月)14時15時にかけて厚生労働省医政局地域医療計画課との意見交換を行った。現在のひっ迫した救急体制がある中で、総務省消防庁に対してだけでなく厚生労働省にも現状伝える必要性があることから、今回初めて実施したもの。消防政策議員懇談会の逢坂誠二衆議院議員、岸まさこ参議院議員、自治労の協力の下、「消防をとりまく救急医療体制の課題と対策」について意見を交わした。取り上げた課題については、①新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う現状の課題について、②現状の課題から考えられる対応策についての2点、消防における救急の現状を伝え、現場の意見を伝えることができた。

今回をきっかけとし、今後も継続的に同様の場を設けるよう要請し、意見交換を終了した。

今後も消防政策議員懇や自治労の協力を得ながら、活動を継続していきたい。

北海道・中国・東海ブロック合同学習会

2022年6月24日(金)、Zoomにて合同学習会を実施し、66単協、2消防本部、約200名が参加した。

学習会冒頭「AI技術によるドローン活用について」と題して元深谷市消防長、現棟アームレスキュー代表取締役の田中章氏から講演が行われた。現在のドローンの開発状況から、消防救助活動にどのようにドローンを活かすか、さらには日々進化

するAI技術を取り入れることができるか、どのような活動が可能となるかについて講義をいただいた。続いてドローンの活用事例について、釧路東部消防職員協議会の八木俊久さん、鳴門市消防職員協議会(全消協ユース部代

表)の永楽勝久さん、杵藤地区消防職員協議会の橋口晃幸さんから、火災・水難・捜索活動のほか、原因調査、訓練、SNSの広報など、幅広くドローンを活用していることが発表された。ドローンの活用については、現場活動に大きく寄与するとされ

安全管理面でも多くのメリットが得られることがわかった。迅速安全な現場活動により、怪我を防ぎ、殉職者を出さないことが皆が目指しているところで、その一翼を担う資機材であると感じた。Zoomを用いることで、より幅広く、多くの情報を容易に手に入れることができるメリットがある半面、長時間に渡って画面を見続けることは難しく、今回はグループワークを開催しなかった。一方、各ブロックや単協の判断で参集するところも少しずつ増え、Zoomと参集を併用しながらの開催ができる



ようになつてきた。コロナ禍での研修会等の開催方法を模索し続け、2年が経過し、少しずつ参集とウェブ双方のメリットを活かしながらの開催ができるようになってきたと感じている。

半鐘のそと

「小学校低学年での授業では、シャープペンシルが使用されていない理由を知っていますか？」

これは先日、全消協須藤会長から教えていただいた話である。確かに、私に通っていた母校では、通学していた当時も令和となった現在もシャープペンシルは使用されていない。

「それは、シャープペンを使用すると授業中分解する生徒が増え、授業に集中できなくなるからです。」

諸説あるとのことでしたが、すくなく納得した。やはり会長は続けて、

「では、これを協議会に当てるはめるとどうでしょう? 授業は消防職場環境の改善や民生的運営・市民サービスの向上を求める活動であり、

シャープペンシルはレクリエーションや懇親会ではないでしょうか。」

近年のコロナ禍から、協議会の必要性を感じない・活動が停滞しているなど指摘をいただくことが増えた。まさに、この話と通ずる部分があると感じた。過去、私もこの任を引き受ける以前は単協会員として、シャープペンシルを分解する楽しさには目を向けておらず、授業の意味をよく理解していなかったように思う。

しかし、活動を進めていくと、全消協役員として授業の大切さを非常に感じている。終わりが見えないコロナ禍、異常気象に伴い多発する自然災害、さらには定年年齢の引上げも迎え、災害が複雑多様化するばかりでなく、市民サービスに直結する災害対応者の高齢化が懸念され、

若年層職員の負担が増すことが想定されている。定年年齢の引上げに該当する職員と若年層職員

が共に働きやすい制度とするためにも、全消協ユース部内でしっかりと議論し、全消協幹事会の場で提起したいと考えている。

一方、シャープペンシルも必要事項であると考えている。共に寝食を一緒にする仲間との懇親や普段触れ合うことのない他ブロックの会員との交流等、ウェブ体制も整った今、次世代にあったシャープペンシルの使用方法も検討する必要があると感じている。

私はユース部代表として、PS-JCCユースStep Upセミナーの企画運営に携わっている。その責任として、ユース会員の皆様へ質の高い授業が提供できるよう、全消協ユース部の最高な仲間たちとさらに思考錯誤し、セミナーをStep Upしていきたいと思う。

永楽勝久
(ユース部代表、鳴門市消防職員協議会)

全消協ではホームページのほか、Facebook・Twitter・Instagramを開設しています!



今後の予定

2022年12月16日 第53回労働講座
ハイブリッド(ウェブ・参集併用)開催 東京都